

# お茶の時間

## 祝「チバニアン」命名

佐藤 正 陸自78

ドイツの気象学者アルフレッド・ウエゲナーは、1912年に南アフリカ大陸の東海岸とアフリカの西海岸がジグソーパズルのように合わさること

から着想を得て、かつて地球は単一の大陸だったが、それが分離・移動して現在の形となったという「大陸移動説」を発表しました。しかし、大陸を動かす原動力は何か、という説明ができません。この学説はしばらく忘れ去られていました。

1950年代に入ると地球の古い地磁気の研究が進み、離れている大陸の地磁気が系統的に動いていることが発見され、大陸はかつて一つにまとまっていたことが明らかになります。

地球は46億年前に誕生しましたが、時代の節目ごとに117の地質時代に区分されています。その時代区分の中で、まだ命名されていない時代がいくつかあり、77万4千年前から12万9千年前の間も命名されていない時代の一つでした。

地球の歴史では磁石のN極とS極が逆になる地磁気の逆転現象が起きていましたが、最後に逆転が起こったのが

77万年前で、その後現在ののようにN極が北を指すようになりました。

千葉県市原市の地層には磁気を持つ鉱物が含まれ、その鉱物に地磁気が逆転した証拠が発見されました。2017年、研究に携わった日本の地質学者のグループは、その時代をチバニアン（千葉の時代）と命名することを国際地質科学連合に申請しました。

今年1月17日、国立極地研究所は、77万4千年前から12万9千年前の地球の歴史の一時代をチバニアンと命名されることが決まったと発表しました。これは、今後の日本の地質学の発展にとって大変な快挙です。

地質学は、地球を対象とする自然科学「地学」の一分野です。地学は高校の理科の科目の一つですが、履修者数は低迷していました。10年ほど前までは、高校で地学を履修する生徒は10%ほどの時代が続きましたが、近年、我が国では自然災害が多発したこともあり、地学を学ぶ生徒が少しずつ増え、25%ぐらいが履修するようになりました。

地学は命を守る科目とも言われています。地震や火山、気象について学ぶことで、自然災害に冷静に対処する能力が養われるからです。

地球史にチバニアンが誕生したことで、若い人たちが地学に関心を持ち、日本の地質学がさらに発展することを願ってやみません。